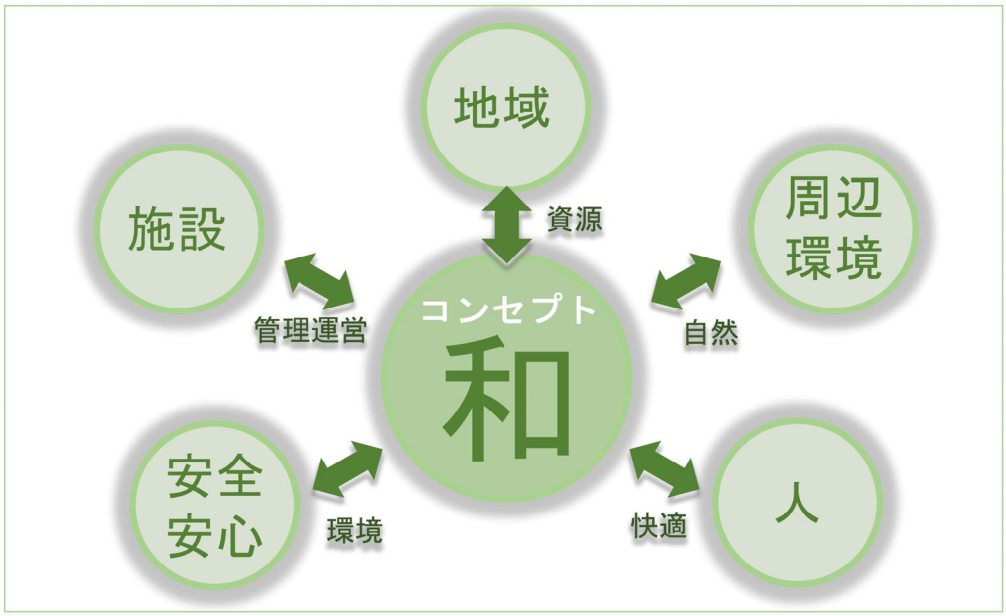
神埼市・吉野ヶ里町葬祭場建設基本設計（概要版）

① 設計の基本方針

自然や文化・歴史などの資源に恵まれた地域性を感じられる「和」の葬祭場

神埼市・吉野ヶ里町の都市計画に掲げられている「周辺環境との調和（神埼市）」及び「快適で安全・安心（吉野ヶ里町）」に配慮した人と環境にやさしい計画とします。
また神埼市・吉野ヶ里町の豊かな自然や文化・歴史など、地域性（ふるさと）を感じられるような終焉の場にふさわしい「和」を基調とした施設を計画します。

■「和」をコンセプトとした5つのポイント



■和をイメージする要素

□九年庵（深い軒）

□下村湖人生家
（しっくい＋杉板）

□吉野ヶ里歴史公園
（切妻屋根）

—施設計画の基本方針—

1．地域性（ふるさと）を感じられる終焉の場にふさわしい「和」の施設

・神埼市・吉野ヶ里町の縮図として、豊かな自然や文化・歴史などの資源に恵まれた地域性（ふるさと）を感じられる「和」の施設とし、従来の嫌忌施設としての火葬場のイメージを一新します。

2．周辺環境と調和した施設

・周辺に緑地や広場による緩衝帯を設け、良好な景観を創出し、自然で清楚な環境を整備します。
・神埼市の市木である「もみじ」、神埼市・吉野ヶ里町の市花・町花である「さくら」を敷地内に配置し、四季を感じるランドスケープとします。
・視覚的に圧迫感のない景観とします。

3．人にやさしい快適な施設

・子どもから高齢者・障がい者そして健常者まで誰もが利用しやすい快適な施設とします。
・分かりやすいサイン計画とします。

4．環境にやさしい安全・安心な施設づくり

・自然採光、通風を取り入れた施設とします。
・環境負荷が低く、長寿命な材料を使用するとともに、再利用率の高い材料を使用します。
・シックハウス対策を考慮した材料を使用します。
・省エネルギーに配慮した設備を取り入れます。

5．管理運営しやすい施設づくり

・集中管理システム、総合案内システム等の導入により管理運営の効率化を図ります。
・分かりやすい動線と作業環境に配慮します。
・将来の設備更新を考慮した計画とします。
・清掃がしやすく、管理しやすい仕上げとします。

②配置計画の考え方

１）明快なゾーニング計画

本施設は「火葬棟」と「待合棟」を南北に配置し、その２つを連結させる機能として「エントランス棟」を設ける明快なゾーニング計画としています。

火葬棟は周辺民家から十分な離隔をとった敷地南側に配置し、待合棟は待ち時間を落ち着いて過ごせ、外部の良好な景観も眺望できる敷地北側に配置します。エントランス棟は、施設の顔となるよう建物の中央部に配置し、東西に通る施設の軸（コア）とすることで、車寄せや駐車場からアプローチしやすい計画とします。

２）会葬者の心情に配慮した車両動線計画

敷地への進入口は、視認性や進入動線が明瞭な南東部からとし、エントランス棟の大きな屋根がご遺体や会葬者の皆様を出迎えます。

敷地内では会葬者同士の交錯がないよう、駐車場周囲に車両ルートを確保、回遊性を持たせた注)1way方式とします。

３）利便性の良い駐車場計画

駐車場は建物の正面（東側）に配置し、敷地進入口から近く、視認性が良い位置とします。

また、火葬が重なった場合でも、敷地内に駐車対応できるようゆとりある駐車場計画とします。身障者用駐車場は屋根を設置し、メインエントランスに近いロータリー部に設けます。

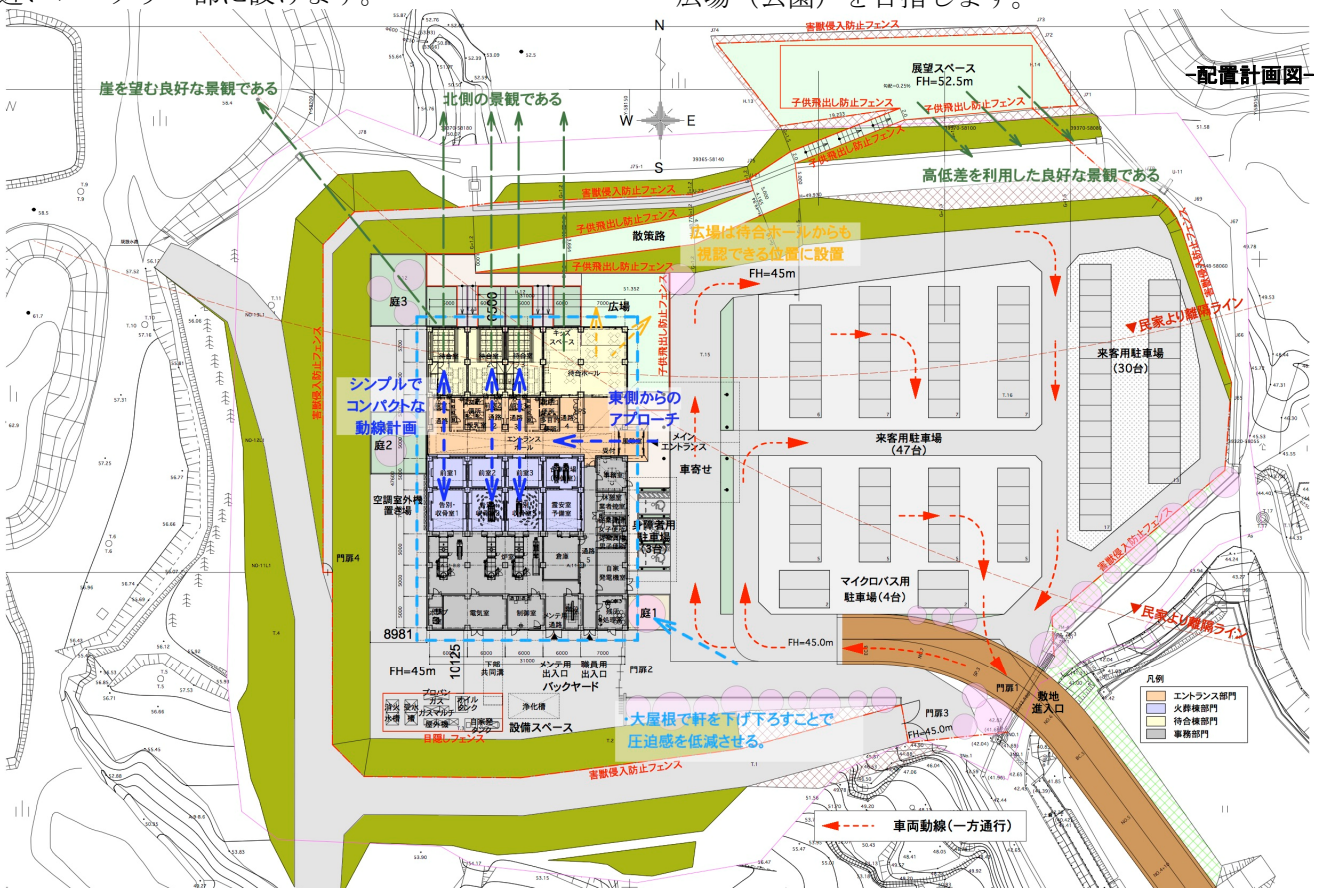
-鳥瞰イメージ：敷地南東より-

４）地域性（ふるさと）や四季を感じる外構計画

周辺環境との調和を図るため、緑地や広場による緩衝帯を設け、外部からの景観にも配慮した計画とします。

車両動線は街路樹により景観に配慮し、会葬者同士が視線を合わせないよう目隠しや植栽帯を適所に配置します。そして、神埼市の市木である「もみじ」、神埼市・吉野ヶ里町の市花・町花である「さくら」を敷地内に配置し、四季を感じられる豊かなランドスケープとします。

待ち時間には子どもたちの遊び場として、また心を落ち着かせる場所として広場を設け、待合棟からも視認できる北東側に配置します。さらに、その北東側には高低差を利用した展望スペースを設け、良好な景観を望めるよう整備し、誰からも親しまれる広場（公園）を目指します。



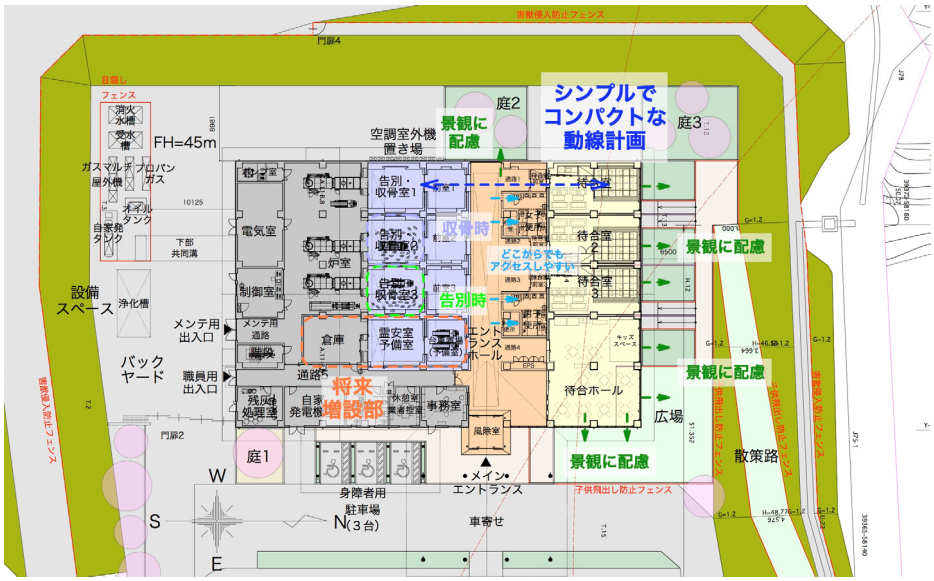
注）1way 方式…一方通行、一筆書き

③平面計画の考え方

1）会葬者の心情に配慮した平面配置

近年、家族葬や密葬が増加している中で、極力他の会葬者と動線や視線が交錯しない、横の動線のみで完結できる個別タイプの平面計画とします。

メインエントランスから、受付、告別、入棺、待合、収骨まで、一連の流れがスムーズにいくようにシンプルかつコンパクトな動線計画とします。



−平面計画図−

2）合理的な空間構成

告別と収骨は利用時間帯が異なるため、室を併用することで合理化を図っています。また、将来増設の告別・収骨室を台車置き場、霊安室などに利用する計画とします。

3）自然を採り入れたシーンの切り替え

一連の儀式の中で、儀式（空間）の変化点（箇所）には、光や風・緑などの自然を取り込み、シーンの変化に合わせて会葬者の心情に配慮した空間構成とします。

4）会葬者を迎え入れる開放感のあるエントランス

東西に延びたエントランスホールは、吹抜けとなり開放感のある開口部や、柔らかい木調の勾配天井で温かく会葬者を迎え入れます。また、火葬棟と待合棟を行き来する際の、シーンや心情の変化に対応する緩衝帯ともなっています。便所はエントランスホールに面して設けることで、どこからでもアクセスしやすい計画としています。

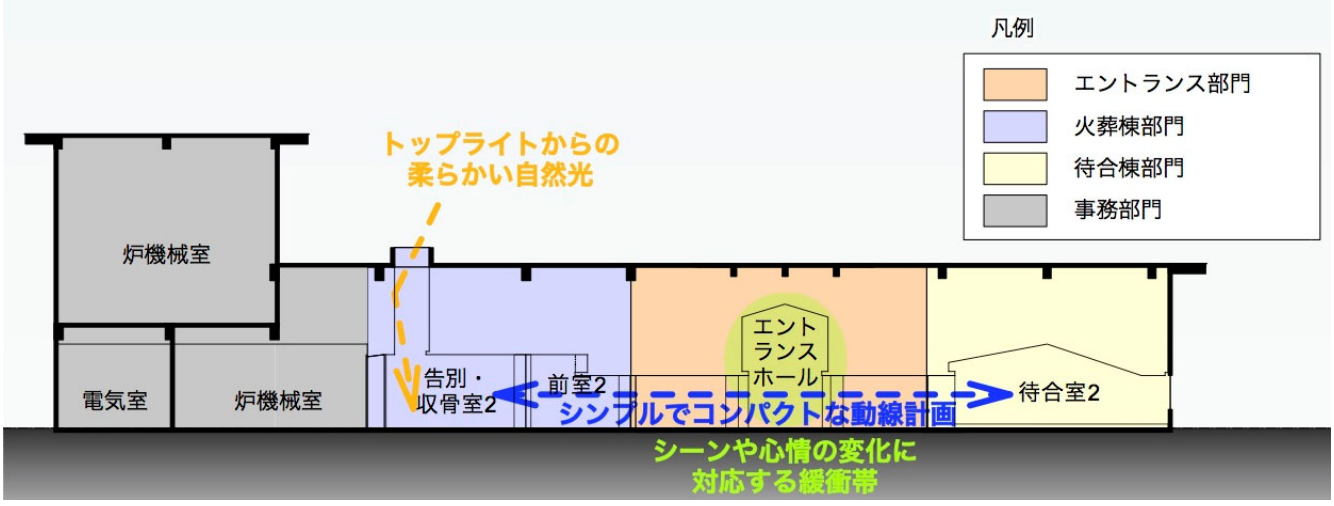
5）最期のお別れにふさわしい告別・収骨空間

石貼りの床で緊張感のある空間とし、無駄な装飾を排除した厳粛な場とします。入棺する際には、吹抜のトップライトからのやわらかい自然光で故人との最期のお別れにふさわしい昇華をイメージさせる空間演出を行います。

6）多様性のある落ち着いた待合空間

待合室は落ち着いた内装とし、待合ホールは通常、子どもや他の会葬者同士が利用できるオープンな空間です。将来、炉増設時には待合ホールの一部を待合室に利用できるよう多様性を持たせます。

−外観パース：エントランス正面より−



−断面計画図−

④外観デザインの考え方

-外観イメージ：建物南東側より-

建物のボリュームは全体的に大屋根をかけたシンプルで明快な屋根計画とする。屋根の形状は、周辺の脊振山系の稜線に馴染むよう、緩やかな切り妻屋根とする。また屋根面積が広いため、南北に棟を設け軒を下げ下ろすことで、敷地出入口から進入した際、圧迫感を軽減させる計画とする。軒は深く取り、雨掛かり対策や日射抑制を目的とし、建物全体が一体となるよう景観に配慮する。全体の色彩は華美にせず、周辺環境に馴染むようなアースカラー（土色）を基調とし、深い色で統一感を持たせる計画とする。

⑤内観デザインの考え方

「エントランス棟」は、施設の中心（軸）となるため、吹抜けにすることで荘厳な空間とする。また、屋内仕様の中庭上部からトップライトにより自然光を取り入れる計画とする。

告別・収骨室上部にも炉前部分に吹抜けを設け、最後のお別れにふさわしい昇華を意識させるよう配慮する。また、吹抜天井部はトップライトを設け、外部の光を柔配慮した演出とする。

-待合ホール-

「待合棟」は、ヒューマンスケールとすることで、落ち着きある空間とする。脊振山の稜線に合わせた勾配天井とし、天井には段差を付けて間接照明を設置し、棚田を連想させるような意匠とする。

-エントランスホール-

-告別・収骨室-

※掲載している図面・パース等は基本設計時のもので、実施設計において変更になる場合があります。